

## 有田市地域公共交通会議（ネットワーク全体の評価）

### 1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

#### 公共交通の将来像

■有田市の概要（令和5年12月末現在）

【人口】25,721人 【面積】36.83k㎡ 【高齢化率】36.14%

【主産業】石油精製、ゴム製品等の製造業、果樹栽培、沿岸漁業

■公共交通の将来像（第5次有田市長期総合計画 前期基本計画より）

【公共交通機関の充実】

JRやバス・タクシー事業者など、関係事業者との連携強化に努め、料金体系・運行ルート・停留所の配置等の見直しや環境改善に取り組みます。

【新しい交通システムの研究】

初めて利用する人でも安心して利用できるよう、広報など各種情報発信ツールを用いて、積極的に情報提供を行います。

【デマンドバス利用促進活動】

利用者の利便性向上及び利用促進に向け、分野横断的に関係機関と協働し、利用する市民が公共交通を支える持続可能な仕組みの構築に取り組みます。

#### 公共交通ネットワークのイメージ図

※別添参照（別図）

### 2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

交通空白地帯の解消を図りながら、安定してサービスを提供するという観点により、以下の目標・効果の達成状況に基づく評価をおこなう。

①公共交通空白地域を解消する。

②対象地区人口が減少傾向にある状況の中でも、年間輸送人員、運賃収入を前年度並み100%に維持する。

〈参考〉

指標名	令和元年度末時点	令和6年度末
バス乗車人員	13,735人/年	15,000人/年
バス停留所協力事業者	-	20か所
地域交通に対する市民満足度	14.0%	30.0%
鉄道乗車人員（市内3駅）	2,562人/日	2,900人/日

### 3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

#### (1) 取組経緯

本市では民間バス路線の撤退により、鉄道駅周辺以外の住民の公共交通手段が失われるおそれがあった。そのような中で、高齢者等の交通弱者の交通手段を確保するため、地域内フィーダー系統補助金を活用し、JR箕島駅と接続するデマンドバスを市内全域で運行させている。

また、人口減少が進む中で、今後も安定してサービスの提供を続けられるよう利用者数を確保することが必要であり、時刻表の配布や広報紙での呼びかけなど、利用促進に取り組んでいる。

#### ■有田市地域公共交通会議の開催状況

R5. 2. 1 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

R5. 6. 27 生活交通確保維持改善計画について

#### (2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

#### 補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
有田市デマンドバス	中紀バス(株)	R4. 10. 1 ~ R5. 9. 30	フ	市内全域で路線バス（一部デマンド）を運行する。

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業  
利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

#### 非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
時刻表の作成・配布	有田市	R2. 10. 1 ~ R3. 9. 30	有田市デマンドバスの時刻表を作成し、市内各所で配布

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
乗車割引サービス	・小学生、障がい者、高齢者運転免許証返納証明書保持者の運賃割引 ・乳幼児の運賃無料 ・市立病院における運転免許証返納証明書保持者への乗車券サービスの配布	利用者・運賃収入の増加

4. 具体的取組に対する評価

公共交通空白地域の解消及び交通手段の確保については、有田市デマンドバスが市内のほぼ全域を運行することにより達成されている。

年間輸送人員及び運賃収入については、コロナウイルスが収束した影響もあり、利用者数が回復し、前年度の水準を上回る結果となった。

しかし、コロナ前ほどは回復していないので、引き続き停留所の近隣事業者と連携した取組や、継続して市内の学生に対する利用促進や SNS による情報発信を行うことで、幅広い世代が活用できるよう取り組みを行う。

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
利用者数は回復傾向にあるものの、コロナ前と比較すると減少している。	停留所の近隣事業者と連携した取組や、継続して市内の学生に対する利用促進やSNSによる情報発信を行うことで、幅広い世代が活用できるよう取り組みを行う。

## 有田市地域公共交通会議（これまでの経緯）

### 1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>事業の適切性については、評価できる。</p> <p>アンケートや乗降調査等による利用者ニーズを把握し利便性の向上を図るとともに、引き続き地域の関係者との連携を深めて持続的な交通サービスの創出に取り組まれない。</p>	<p>利用者からの意見や通勤・通学利用などの利便性向上のため、現在路線再編・ダイヤ改正等に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の意見を考慮した路線再編に取り組んでいく。また、利用促進策を継続して実施しつつ、実施後の効果を評価・検証し、高齢者に限らず幅広い世代が活用できるよう取り組む。公共交通にとって安全・安心は重要であるため、継続してバスの利用促進に務めていき、利用者数を確保する。</p>

### 2. アピールポイント、特に工夫した点など

- ・市立病院において、運転免許証返納者が来院した際にバス回数券1回分を配布した。
- ・高齢者運転免許証返納証明書の提示者への運賃割引制度をPRするため、市のホームページにて掲載するとともに、前述している市立病院の取組とリンクすることで病院利用者へ利便性を紹介した。

# Aコース路線図

# Bコース路線図

	Aコース		停留所		起点
	Bコース		停留所		起点

